平成28年の世界遺産登録を目指して

「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の世界的価値を紹介

■問い合わせ先　世界遺産登録推進室（海の道むなかた館）　☎(62)２６１７

■資産価値の概要

沖ノ島では、４世紀後半から９世紀末まで、ヤマト王権による国家的祭祀（さいし）が実施されていました。日本と朝鮮半島を結ぶ海の道「海北道中（かいほくどうちゅう）」は、中国大陸や朝鮮半島との交流で重要だったことから、海北道中を守る宗像三女神が生まれ、沖津宮、中津宮、辺津宮の三宮からなる宗像大社が成立しました。沖ノ島祭祀はこの海域を支配していた宗像氏らが担い、海を望む台地に古墳を築きました。

「宗像・沖ノ島と関連遺産群」には、中国大陸・朝鮮半島とヤマト王権との交流の証拠となる古代の祭祀遺跡が今に残されています。また、この遺産は日本固有の信仰「神道（しんとう）」の変遷が確認できます。

■神にささげた宝物　～国家的祭祀の証～

沖ノ島祭祀の学術調査は、1954年から1971年にかけて３度にわたり実施され、国家的祭祀が４種類の祭祀形態に変化しながら500年にもわたって実施されたことが分かりました。神にささげた宝物には、中国大陸や朝鮮半島、シルクロードを経て西アジア（イラン）から伝わった宝物もあります。

岩上祭祀（がんじょうさいし）（４世紀後半～５世紀）

巨大な岩の上での祭祀。大量の銅鏡や、剣、勾玉（まがたま）などが出土しています。

岩陰祭祀（いわかげさいし）（５世紀後半～７世紀）

巨大な岩の陰での祭祀。朝鮮半島やイランから伝わったとされる宝物が出土しています。

半岩陰・半露天祭祀（はんいわかげ・はんろてんさいし）（７世紀後半～８世紀前半）

岩陰と露天の間で実施された祭祀。中国から伝わったとされる宝物が出土しています。

露天祭祀（ろてんさいし）（８世紀～９世紀末）

最後の国家的祭祀の形態。畿内での祭祀の方法がここでも実施されています。

■宗像三女神が守る海北道中　～「古事記」「日本書紀」に記される～

日本書紀（720年）には、天照大神が御子神の宗像三女神に「大陸への海路に降りて、歴代天皇を助け、天皇より祭りを受けられよ」との神勅（しんちょく）を下したと記されています。

長女神の田心姫神は沖津宮、次女神の湍津姫神は中津宮、三女神の市杵島姫神は辺津宮にそれぞれ祭られています。

神勅が書かれた扁（へん）額（辺津宮本殿）

「沖津宮（おきつみや）」（沖ノ島）－田心姫神（たごりひめのかみ）－

沖津宮

国家的祭祀を終えた後も、神の島として宗像氏らによる信仰が続きました。17世紀には社殿が建てられたとされています。

通常、渡島できない沖ノ島を拝むため、大島北側の海岸に面した丘の上に建てられています。

沖津宮遙拝所

「中津宮（なかつみや）」（大島）－湍津姫神（たぎつひめのかみ）－

中津宮

17世紀には社殿が建てられたとされ、海を望む御嶽山山頂のふもとに建っています。

御嶽山では沖ノ島での露天祭祀と同様の宝物が出土しています。

大島御嶽山遺跡

「辺津宮（へつみや）」（田島）－市杵島姫神（いちきしまひめのかみ）－

辺津宮

三宮の総社。現在の本殿は大宮司宗像氏貞、拝殿は小早川隆景が16世紀後半に再建したものです。

辺津宮境内奥の下高宮では、沖ノ島での露天祭祀と同様の宝物が出土しています。

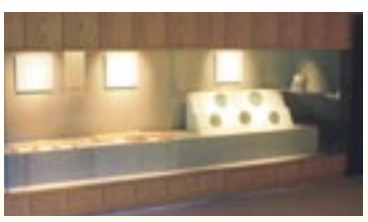
下高宮遺跡

新原・奴山古墳群（しんばる・ぬやま）

新原・奴山古墳群

沖ノ島祭祀を実施した宗像氏らは、５世紀前半から６世紀後半にかけて、当時の入り海に面した「海北道中」を望む台地に前方後円墳５基、円墳35基、方墳１基の計41基の古墳を築きました。

神宝館では沖ノ島の宝物を見学できます



●開館時間
9:00～16:30
●休館日　なし
●入館料
▽大人＝500円　▽高校・大学生＝300円
▽小・中学生＝200円
■問い合わせ先
宗像大社　☎(62)１３１１

海の道むなかた館では通常渡島できない沖ノ島を３D体感できます

●開館時間
9:00～18:00
●休館日　毎週月曜日
●入館料　無料
■問い合わせ先
海の道むなかた館　☎(62)２６００